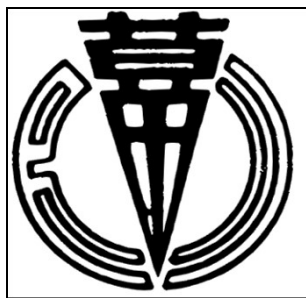


幕別町 まくべつちょう



人口（R2国調） 総数：25,766人 男：12,243人 女：13,523人
 面積 477.68km²
 役場所在地 北海道中川郡幕別町本町130番地1
 郵便番号 089-0692
 電話番号 (0155)54-2111
 FAX (0155)-54-3727
 ホームページ <http://www.town.makubetsu.lg.jp/>
 Eメール yakuba@town.makubetsu.lg.jp
 市町村コード番号 016438
 市町村類型 V-2
 交通機関 根室本線幕別駅から徒歩3分

【地勢】

幕別町は十勝平野のほぼ中央部に位置し、北端には十勝川、西に札内川、中央部を猿別川、そして、南に当縁川が流れている。これらの川の流域はおおむね平坦で、沖積土層からなる十勝平野の中心部を形づくっている。また、中央部から南部に向かっては、火山性土からなる台地性の丘陵が連続している。そのため気候は大陸性で、冬は寒く夏は高温となることが多いが、土壌は肥沃で農耕に適している。

【歴史】

明治13年、十勝外4郡戸長役場が大津村に設けられ、幕別地方はその所管となる。同15年、宮城県人細谷十太夫が止若に移住したのが、和人入地の始まりである。その後、富山、徳島、岡山の各県から団体移住する者が多くなり、同30年9月には、大津村戸長役場の所管を離れ、幕別外六か村戸長役場が猿別に設けられた。この年が幕別町の1年目である。同38年に鉄道が開通した。それに伴い町の中心が、現在の幕別市街に移動した。昭和21年、町制が施行され、同45年頃から帯広市に隣接する札内地区がベットタウンとして人口の増加が著しくなり同52年には、役場庁舎のある幕別市街の人口を超えた。同58年に当町が考案した「パークゴルフ」は、同62年には、国際パークゴルフ協会が設立され、令和5年にパークゴルフ発祥40周年を迎え、管内、道内、全国、海外へ普及がなされている。平成8年には、開町100年・町制施行50周年を迎え、数々の記念事業が行われた。平成18年2月6日には、忠類村と合併（編入合併）し、平成28年には、合併10周年を迎え、活力あるまちづくりが進められている。

【町名の由来】

幕別はアイヌ語の「マクウンベツ」が転訛したもので「山際を流れる川」または「うしろの川」とも訳される。

【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	シバザクラ	H28.2.6
樹木	カシワ	〃
鳥	オオハクチョウ	〃

【町章の意味】

「幕」は末広がりには伸びてゆく幕別を、「別」は町民の和を表した。すなわち町民の和を礎に発展していく町であるというもの。

【町政のあゆみ】

昭和 21 年 町制施行

- 〃 41 年 開基70周年記念式典、町民会館完成
- 〃 43 年 町営国民宿舎幕別温泉ホテル開業
- 〃 47 年 役場新庁舎、温水プール完成
- 〃 49 年 宮崎県東郷町と友好町提携
- 〃 51 年 開基80年記念公園造成開始
- 〃 58 年 農業者トレーニングセンター完成、パークゴルフ発祥
- 〃 61 年 開基90年・町制施行40年記念式典、葬斎場完成
- 〃 63 年 十勝中央大橋完成

平成 元 年 札内スポーツセンター完成

- 〃 2 年 町営国民宿舎幕別温泉ホテル閉館
- 〃 3 年 図書館完成
- 〃 4 年 幕別町武道館完成
- 〃 5 年 パークゴルフクラブハウス完成

平成 8 年 開基100年・町制施行50周年記念式典、百年記念ホール・保健福祉センター完成

- 〃 9 年 幕別運動公園陸上競技場完成
- 〃 10 年 幕別町学校給食センター完成
- 〃 11 年 幕別運動公園野球場完成
- 〃 12 年 いなほ公園完成
- 〃 13 年 第4期総合計画スタート
- 〃 15 年 幕別町農業担い手支援センター完成
- 〃 18 年 忠類村と合併し、新「幕別町」が誕生
- 〃 20 年 第5期総合計画スタート
- 〃 25 年 パークゴルフ発祥30周年記念式典
- 〃 28 年 合併10周年記念式典 幕別町役場新庁舎完成

〃 29 年 札内コミュニティプラザ完成

- 〃 30 年 第6期総合計画スタート
- 令和 元 年 忠類ナウマン象化石骨発見50周年記念事業
- 〃 5 年 パークゴルフ発祥40周年記念

【行政施策重点事項】

これまで築いてきた施策を点検、継承するとともに、本町の持続的な発展のために、町民、地域、行政が一体となってまちづくりの方向性を示す「第6期幕別町総合計画」を策定し、将来像「みんながつながる住まいのまくべつ」を目指し、五つの基本目標により、「住み続けたい」「住みたい」と思えるまちづくりに取り組んでいる。

1 協働と交流で住まいる

地域コミュニティ活性化の推進。町民参加のまちづくりの推進。国内交流や国際交流の推進。町民との情報共有とわかりやすい行政の推進。効率的で健全な行財政の運営。広域行政の推進。移住・定住施策の推進。ICT活用の推進。

2 特色ある産業で住まいる

時代に即した農業振興。森林の多面的機能の保全と木材の利用促進。地域特性を生かした商工業の振興。雇用環境の充実。地域性あふれる観光の発信。

3 人がいきいき住まいる

安心して子どもを産み育てられる環境づくりの推進。明るい長寿社会の実現。障がい者（児）福祉の充実と共生社会の実現。地域における福祉活動の推進。持続可能な社会保障制度の確立。町民一人ひとりの健康づくり。迅速かつ的確な消防・救急体制の確立。町民の安全・安心を守る災害対応の充実。交通安全と防犯体制の充実。消費者の権利尊重と自立支援。墓地環境と火葬場の整備。

4 豊かな学びと文化、スポーツで住まいる

豊かな人生を育む生涯学習の推進。「生きる力」を育む学校教育の推進。青少年の健全育成の推進。芸術・文化活動の振興。歴史的文化的の保存・伝承。健康づくりとスポーツ活動の振興。

5 自然との調和で快適な住まいる

美しい自然環境の保護と循環型社会の形成。安全で機能的な道路と公共交通体系の整備。地域に即した安心して生活できる住環境の整備。町民とつくるみんなの公園と緑地の保全・整備。安全安心な水道事業の運営。下水道の計画的な推進と効率的な排水処理。計画的な土地利用の推進。

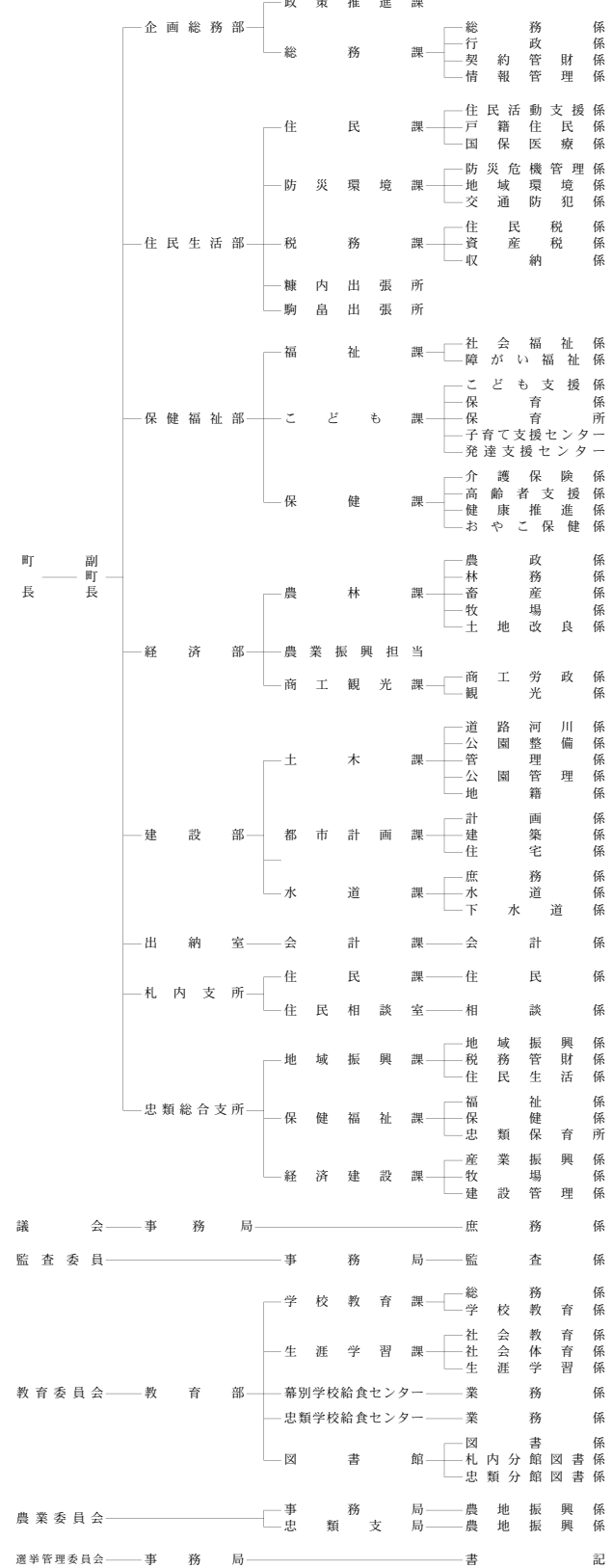
【行政管理の特色】

庁舎内LANの構築、財務会計システムの導入、平成20年度からは電子決裁システム導入等による事務の簡素化を推進し、指定管理者制度の導入、合併後の事務分担の見直しや増加する行政需要に対応していくため大規模な組織の再編を行い、効率的な行財政運営に取り組んでいる。市街地が分散しているため、町の公共施設（学校等含む）を光ファイバーケーブルで結び、情報の共有化を図り、忠類総合支所、札内支所のより質の高い住民サービス向上に努めている。

【主な公共施設】

- 1 百年記念ホール（固定席800、陶芸・木工芸室などの学習室、図書館併設）
- 2 その他・・・保健福祉センター、札内スポーツセンター、ふるさと味覚工房、老人福祉センター、ふるさと館、農業者トレーニングセンター、図書館、ナウマン象記念館、忠類ふれあいセンター福祉、白銀台スキー場、十勝ナウマン温泉ホテルアルコ

【行政組織機構図】



池田町 いけだちょう



人口（R2国調） 総数：6,294人 男：2,967人 女：3,327人
 面積 371.79km²
 役場所在地 北海道中川郡池田町字西1条7丁目11
 郵便番号 083-8650
 電話番号 (015)572-3111
 ホームページ <http://www.town.hokkaido-ikedal.jp/>
 Eメール -
 市町村コード番号 016446
 市町村類型 II-0
 交通機関 根室本線池田駅から徒歩10分

【地勢】

池田町は十勝平野の中央部やや東寄りに位置し、地勢は平坦であり、中央部を利別川、西を十勝川が南流し地味は肥沃で農耕に適している。山岳地帯の標高も100～200m、最も高い所で277mを超える程度である。

【歴史】

明治12年に農業者である山梨県人、武田菊平が入植し、開墾の躰が下ろされ、同29年池田農場・高島農場が設立され、本格的な集団入植が始まる。凋寒村外13村戸長役場が凋寒村利別太に置かれた明治32年が池田町のはじまりである。同37年に釧路線（現根室本線）開通により、池田農場内に池田停車場が設置され、同42年網走線開通後は広く「池田」の名称が知られるようになった。明治39年に戸長役場を廃し2級町村制の施行により凋寒村と称され、大正2年川合村と改称を経て、同15年に町制を施行し、池田町と改称される。

戦後、農村の所得向上と豊かな風物詩を実現しようと、果樹栽培導入事業に端を発したワインづくりは、今日、池田町の欠くことのできない重要な産業として成長し、地域を個性づけるシンボリック役割を担っている。

【町名の由来】

池田の地域は、昔、アイヌ語で「セイ・オル・サム」（貝の傍らの意）と呼ばれ、これが転訛して「シボム・サム」となり、これに漢字の「凋寒」をあて、「凋寒村」と称していたが、大正2年には「川合村」（十勝川と利別川の合流するところの意）に改称し、大正15年の町制施行の際、池田元候爵の農場内の停車場名をとって現在の町名とした。

【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	ツツジ	H10.4.1
樹木	サクラ カシワ	〃
鳥	未制定	

【町章の意味】

外円は母なる川・十勝川と利別川及び融和を表し、三方形は交通の要衝と産業、経済、文化の将来への発展を象徴、中心部に町名の頭文字「イケ」を図案化し、町民の団結を円に町勢の雄飛を翼状に象徴したものである。

【町政のあゆみ】

大正 15 年 町制施行	〃 4 年 池田町保健センター完成
昭和 30 年 町立病院開設	〃 6 年 池田町農業技術研究所完成
〃 37 年 町農産物加工研究所開設 (現ブドウ・ブドウ酒研究所)	〃 7 年 道東自動車道（清水-池田間）開通
〃 38 年 果実酒の試験製造免許	〃 9 年 千代田トンネル開通
〃 39 年 国際ワインコンテストに試作品入賞	〃 10 年 西部地域コミュニティセンター完成、 開町100年記念式典
〃 42 年 十勝ワイン、十勝ブランデー市販開始	〃 11 年 富岡地区コミュニティセンター完成、 池田大橋全面開通
〃 45 年 町営レストラン開業	〃 12 年 近牛地区コミュニティセンター完成
〃 47 年 いきがいセンター開設	〃 15 年 消防庁舎完成
〃 48 年 町営有線テレビ放送開局	〃 16 年 十勝ワイン新工場完成
〃 49 年 ワイン城完成	〃 17 年 ワイン城リニューアルグランドオープン
〃 50 年 まきばの家開設	〃 20 年 千代田大橋開通、開町110年記念式典
〃 52 年 ギリシャ神殿風の総合体育館完成、 カナダのペンティクトン市と姉妹都市提携	〃 21 年 ワイン城落成35周年パーティー開催
〃 53 年 開基80年記念式典	〃 23 年 十勝いけだ地域医療センター開設
〃 55 年 利別小学校開校	〃 24 年 池田中学校改築
〃 56 年 池田小学校改築	〃 25 年 十勝ワイン50周年記念式典 十勝ワイン50周年記念感謝パーティ
〃 57 年 大規模草地育成牧場完成	〃 28 年 学校給食センター改築
〃 58 年 高島中学校改築	〃 29 年 池田町郷土資料館がオープン
〃 60 年 公共下水道供用開始、高島町民センター完成、	令和 2 年 ワイン城リニューアルグランドオープン
〃 61 年 池田町食肉センター完成	4 年 池田町学校プール完成
〃 63 年 開基90年記念式典、池田町史発行	いきがい焼50周年
平成 元 年 ふるさと銀河線開業	
〃 2 年 田園ホール完成、 パイピングリンク・カーリング場完成	

【行政施策重点事項】

令和3年度から12年度までの「池田町第5次総合計画」を策定し、その実現に向けた取り組みを進めている。

(基本構想)

「ひとが育ち まちが育つ みんなでつくろう 明るいふるさと いけだ」

豊かな地域資源と大いなる自然環境を生かし、安全安心な生活を支える地域社会を築き、誰もが「住んでいて良かった」と思え、郷土に誇りや愛着が感じられるよう、本町の魅力の向上と活性化を進めていきます。

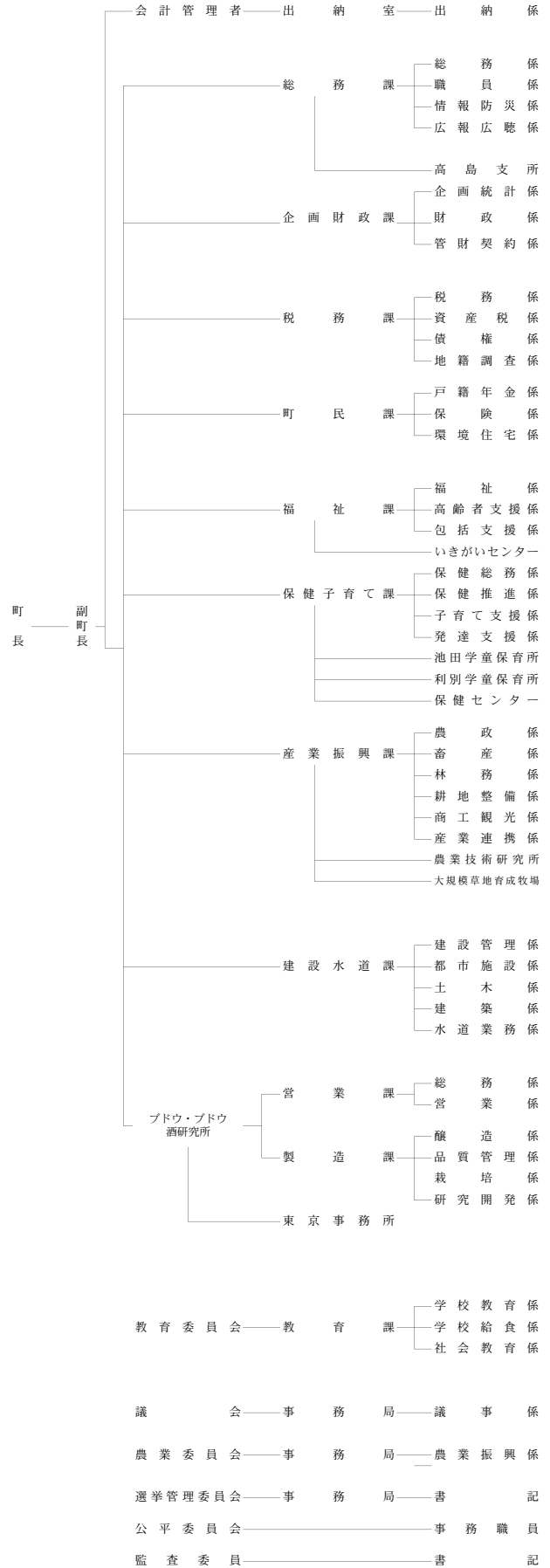
(施策の大綱)

1. 地域の魅力がかがやく産業を活かすつくるまちづくり
農村環境を保全し、地域の資源や特性を活かした産業振興、産業連携を促進することなどにより、新たな産業や雇用を創出し、地域経済を活性化させるまちづくりを進めます。
2. こころとからだを育てる健やかに暮らせるまちづくり
心と身体の成長を支え、困りごとに対する総合的・包括的な相談・支援体制の確保などにより、共生社会を実現し、健やかに暮らすことができるまちづくりを進めます。
3. 未来に向かいはばたく学びと文化を育むまちづくり
家庭や地域ぐるみで健やかな育ちを支え、生涯にわたり学ぶ機会を確保し、芸術文化の伝承およびスポーツ活動の振興などにより、学びと文化を育むまちづくりを進めます。
4. 環境を守りつなぐ安全安心住みよいまちづくり
豊かな自然環境の保全と生活環境の向上を進め、地域防災力の強化を図ることなどにより、誰もが住み慣れた地域で安全・安心、快適に住み続けられるまちづくりを進めます。
5. 人と人がつながるとともに歩みともにつくるまちづくり
地域課題の共有化、地域間交流や移住施策の推進などにより、人を呼び込み、すべての世代が活力にあふれ、住民皆がともに歩みともにつくる、協働のまちづくりを進めます。

【主な公共施設】

1. ブドウ・ブドウ酒研究所・・・ヨーロッパの古城風でワイン工場・レストラン・ショッピングエリア併設
2. いきがいの丘・・・コテージ、レストラン、バンガロー、テニスコート、バーベキュー等の施設
3. いきがいセンター・・・お年寄りの生きがい対策としての陶器製作施設
4. その他・・・廃棄物処理センター、大規模草地育成牧場、総合体育館、下水道管理センター、食肉センター、田園ホール、カーリング場（パイピング）、十勝いけだ地域医療センター、室内ゲートボール場、地域コミュニティセンター、地区コミュニティセンター、保健センター、社会福祉センター、農業技術研究所

【行政組織機構図】



豊 頃 町 とよころちょう



人口（R2国調） 総数：3,022人 男：1,478人 女：1,544人
 面積 536.71km²
 役場所在地 北海道中川郡豊頃町茂岩本町125番地
 郵便番号 089-5392
 電話番号 (015)574-2211
 ホームページ <https://www.toyokoro.jp>
 Eメール webmaster@toyokoro.jp
 市町村コード番号 016454
 市町村類型 I-0
 交通機関 根室本線豊頃駅から茂岩行きバスで10分

【地 勢】

豊頃町は十勝の東南端に位置し、東は十勝川及び丘陵を境として浦幌町に、西は比較的低い丘陵地形の森林地帯によって幕別町に、北は十勝川岸の平坦を横切って池田町、幕別町に、南は大樹町に隣接し、町の東南端には湿原地帯が広がり丹頂鶴の優美な姿と、高山植物群落の分布する景観のすばらしい太平洋に望んでいる。

【歴 史】

十勝発祥の地である豊頃町の歴史は古く、寛永12年（1635年）に十勝場所が設置され、文政8年（1825年）に大津に函館から杉浦嘉七が場所の請負人となって漁場を開いた。文久3年（1863年）に青森県から堺千代吉が杉浦嘉七の雇人として大津に住みつき、漁場を開拓したのが和人定住の初めである。

また、明治13年に十勝外4郡戸長役場が大津に置かれ、同30年に二宮尊徳の孫、二宮尊親が現在の二宮地区に二宮農場をつくり集団移民によって開拓が始められた。同39年4月に2級町村制施行により大津村・豊頃村として発足し、昭和30年4月に大津村の中部地区を合併、同40年に町制を施行した。その後、同44年に大津港が第4種漁港に昇格され、同54年にその一部が使用開始となったのに伴い、沿岸漁業から沖合漁業への進出による漁獲高の増加が期待されている。

同54年役場庁舎を新築し、21世紀に躍進すべく町づくりの諸施策が着実に進められている。

【町名の由来】

豊頃の由来はアイヌ語から転訛したものである。

一般的に「トエコロ」と和訳「大きなふきのあるところ」と言われている。他に「トプヨカオロ」と和訳「人死して住まわさるところ」また、「トイ・コロ」と和訳「土多く、礫少ないところ」とも言われている。

【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	エゾムラサキツツジ	S54.7.1
樹木	ニレ	〃
鳥	未制定	

【町章の意味】

中心円よりト・ヨ・コ・ロを抽象化し、全体の円形は、平和、親和、協力、団結を示し変形三重円は波紋を表現し、町の限りない躍進を象徴したものである。

【町政のあゆみ】

- | | |
|--|---|
| 昭和 40 年 町制施行 | 平成 10 年 学校給食センター開設 |
| 〃 42 年 町民憲章制定 | 〃 13 年 生涯学習施設「える夢館」完成 |
| 〃 58 年 相馬市と姉妹都市提携、豊頃大橋完成 | 〃 14 年 二宮小学校開校100年、茂岩小学校に統合 |
| 〃 59 年 滑川市と姉妹都市提携 | 〃 15 年 十勝川水防訓練開催 |
| 平成 元 年 町立豊頃医院開設 | 〃 16 年 十勝環境複合事務組合に加盟 |
| 〃 2 年 高齢者健康増進センター完成 | 〃 17 年 町立歯科診療所新築オープン、
ごみ有料化開始 |
| 〃 3 年 アメニティホール完成 | 〃 18 年 町地域包括支援センター開設 |
| 〃 4 年 十勝河口橋完成 | 〃 19 年 茂岩小学校と豊頃小学校が統合、
茂岩保育所が旧茂岩小学校に移転 |
| 〃 5 年 デイサービス事業開設 | 〃 22 年 第4次豊頃町まちづくり総合計画スタート |
| 〃 7 年 木工芸体験施設新築、防災行政無線開設 | 〃 27 年 町制施行50周年記念式典 |
| 〃 8 年 保健センター開設、茂岩下水浄化センター
完成、カナダブリティッシュコロンビア州サ
マーランド市と姉妹都市提携 | 〃 28 年 福祉活動拠点施設ひだまり交流館完成 |
| | 〃 29 年 新葬斎場完成 |
| | 〃 30 年 豊頃町まちなか拠点施設ココロコテラス完成 |
| | 令和 2 年 開町140周年記念事業実施
防災行政無線デジタル化共用開始 |

【行政施策重点事項】

令和3年3月に、「第5次豊頃町まちづくり総合計画」を策定し、第3次総合開発計画で定めた「やさしさと躍動のふれ愛タウンとよころ」を普遍的なものとして踏襲し、本町ならではの地域特性・資源を活用しながら、子どもから高齢者まで、町民1人ひとりがともに支え合い、安心して健やかにいきいきと暮らせる、小さくとも活力のある町の実現を目指します。

1. 快適で魅力あるまちづくり…良好な環境の保全と利便性・安全性の向上を図り、誰もが「住んでみたい」「住んで良かった」「これからも住み続けたい」と思えるまちづくり
2. 豊かな資源を生かしたまちづくり…豊かな資源を生かし、農林水産業と商工業、観光の連携、互産互生の取組みを進めながら、産業を支える人材の育成を図り、活力ある産業の振興
3. 躍動感あふれる人づくり…生涯にわたる学びを通じて、様々な分野で活躍する人づくりを進めるとともに、町民一人ひとりが生き生きと活動するまちづくり
4. 健康で心ふれあうまちづくり…保健・医療・福祉の連携と充実を図り、子どもから高齢者まで健やかに暮らせ、全ての町民が互いに個性を尊重し、ともに支え合う共生社会づくり
5. みんなが力を合わせるまちづくり…町民と地域、行政が一体となって、夢と課題を共有しながら、ともに知恵と力を出し合い、自立可能・持続可能なまちづくり

【行政管理の特色】

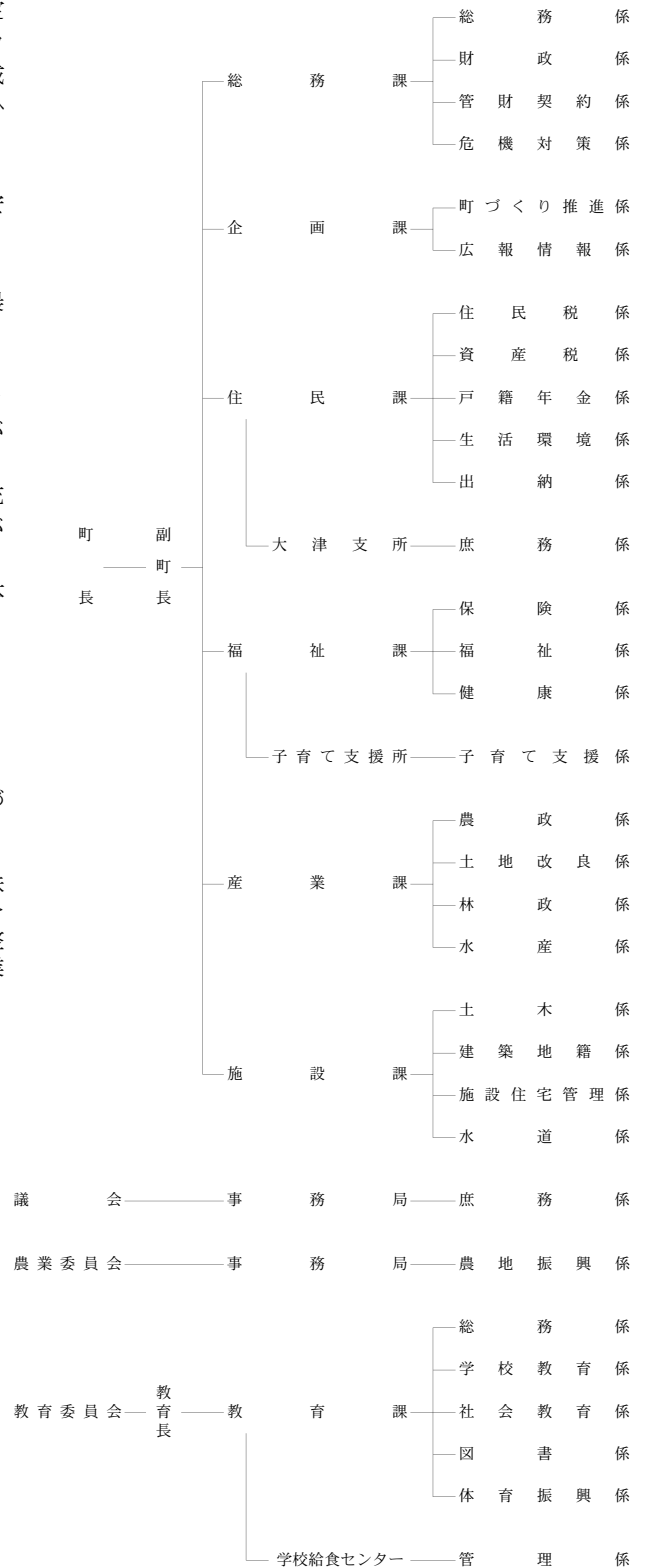
本町は畑作と酪農を中心とする農業を基幹産業に、第4種漁港大津漁港を基地として沿岸漁業など第1次産業を主軸とした町づくりを進める町である。

平成8年度からは、保健センターの開設により、健康保持増進に必要なサービスの充実を図り、カナダ国サマーランドとの姉妹都市提携により、国際時代にふさわしい人材の育成と親善交流を推進しており、公共下水道や合併浄化槽設置、ドリームタウン整備事業、道路網の整備等、雄大で美しい自然を守りながら、産業と生活をより豊かにする施策の展開を目指している。

【主な公共施設】

1. 総合体育館、高齢者健康増進センター、パークゴルフ場、アメニティホール、える夢館（生涯学習施設）
2. その他…農業センター、保育所、野球場、農業構造改善センター、コミュニティセンター、ココロコテラス、ジュエリーハウス

【行政組織機構図】



本 別 町 ほんべつちょう



人口（R2国調） 総数：6,618人 男：3,228人 女：3,390人
 面積 391.91km²
 役場所在地 北海道中川郡本別町北2丁目4番地1
 郵便番号 089-3392
 電話番号 (0156)22-2141
 ホームページ <http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp>
 Eメール soumuk@town.honbetsu.hokkaido.jp
 市町村コード番号 016462
 市町村類型 II-0
 交通機関 十勝バス本別停留所から徒歩5分

【地 勢】

本別町は十勝東北部に位置し、本別川の溪流を中心として十勝管内有数の景勝地「本別山溪」を有し、東部及び南部は起伏の険しい標高200m内外の丘陵に覆われ、西部及び北部は、標高50m～300mの段丘地を形成している。地味は利別川と美里別川の低地は沖積地となっており、丘陵や段丘に接するところは扇状地を形成、各河川の流域には沖積地が分布、台地に続く低湿地には泥炭を形成している。

【歴 史】

明治26年、篠原相松氏により開拓の躰がおろされ、同35年本別市街に戸町役場が置かれ本別の基礎が築かれるとともに、昭和8年町政が施行され十勝で2番目の町となった。同20年、米軍機の空襲を受け、市街地の3分の2が焦土と化した。翌21年戦災復興特別都市計画の指定を受け、次第に新しい都市へと生まれ変わってきた。

開拓以来、地域産業の軸は農業であるため、農業を中心とした産業開発を進めており、昭和37年製糖工場（現、北海道糖業株本別製糖所）、同47年株明治本別工場が本町に進出し地域産業開発に大きく貢献している。平成15年には待望の道東自動車道本別ICが開通し道東を結ぶ新たな拠点として発展が期待されている。近年「協働のまちづくり」「福祉でまちづくり」「豆の町」などの「本別ならではの」を発信し、まちづくりに取り組んでいる。

【町名の由来】

町名本別はアイヌ語で「ボンベツ」（小・川）小さい川の意味からきたものである。

【町章の意味】

本別の「本」を中央に「別」の字を円形に図案化したものであり、町民の団結、融和と躍進を象徴している。

【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	エゾムラサキツツジ	S56.9.15
樹木	カシワ	〃
鳥	アカゲラ	H3. 9. 15

【町政のあゆみ】

- | | |
|---|--|
| 昭和 8 年 町制施行 | 平成 11 年 商工活性化センター(アースホール)完成、
ふれあい交流館・本別町世代交流館完成 |
| 〃 29 年 上水道（本別市街）給水開始 | 〃 12 年 本別町国民健康保険病院完成、
本別町総合ケアセンター完成、
老人保健施設「アメニティ本別」完成 |
| 〃 45 年 本別中央小学校・町体育館完成 | 〃 13 年 開町100年記念式典、
徳島県小松島市と友好都市提携 |
| 〃 46 年 開基70周年記念式典挙行 | 〃 14 年 北地区交流センター完成、仙美里橋完成、
銀河クリーンセンター供用開始、
ゴミ分別スタート |
| 〃 48 年 役場総合庁舎・養護老人ホーム完成 | 〃 15 年 道東自動車道本別 I C 開通 |
| 〃 51 年 字名地番改正、区長制を自治会移行 | 〃 18 年 第7回介護保険推進全国サミットインほんべつ開催
「福祉でまちづくり」宣言
ふるさと銀河線廃止
ふるさと銀河線代替バス運行 |
| 〃 54 年 中央公民館・老人福祉センター・
本別中体育館・仙美里小学校完成 | 〃 19 年 ほんべつ学びの日宣言 |
| 〃 55 年 図書館完成 | 〃 21 年 道の駅「ステラ★ほんべつ」完成 |
| 〃 56 年 開基80周年記念式典 | 〃 23 年 開町110年記念式典 |
| 〃 57 年 歴史民俗資料館完成 | 〃 24 年 農産物ものづくり館(ゲンキキッチン)完成 |
| 〃 59 年 勇足中学校校舎完成 | 〃 25 年 本別町学校給食共同調理場完成 |
| 〃 60 年 本別警察署完成 | 〃 29 年 幼保連携型認定こども園ほんべつ開園 |
| 平成 元 年 愛のかけ橋完成 | 〃 31 年 本別町しごと体験交流館完成 |
| 〃 3 年 健康管理センター完成、下水道供用開始、
開基90周年記念式典、
オーストラリアキルモア町と姉妹都市提携 | 令和 3 年 開町120年記念式典 |
| 〃 4 年 義経の里ロジ「御所」完成 | |
| 〃 5 年 仙美里・勇足コミュニティーセンター完成、
ふれあい多目的アリーナ完成、
道立本別高等学校校舎完成 | |
| 〃 6 年 本別中学校校舎完成 | |
| 〃 8 年 オーストラリアミッチェルと姉妹都市提携、
本別初の名誉町民誕生 | |

【行政施策重点事項】

第7次本別町総合計画(令和3年度～令和12年度)において、本別町の目指すべき将来像を「心を合わせて みんなの笑顔を 未来につなぐ」とし、健全な財政運営のもと、安全・安心な暮らしを維持するために住民福祉の質と良好な生活機能を堅持するとともに、環境に配慮した取り組みを通じて、将来の世代が永続して営みを継続できる社会の形成を目指します。

○基本目標

1. 安定した産業から、わくわく笑顔をつくり出すまち
 - (1) 農林業の振興
 - (2) 商工業の振興
 - (3) 観光の振興
2. 人と人のつながりで、いきいき笑顔で暮らすまち
 - (4) 子育て支援の充実
 - (5) 健康づくりの推進
 - (6) 地域福祉の推進
 - (7) 高齢者福祉の充実
 - (8) 障がい者福祉の充実
 - (9) 医療体制の維持
3. 豊かな心と、きらきら笑顔を育むまち
 - (10) 学校教育の充実
 - (11) 社会福祉活動の推進
 - (12) スポーツ活動の推進
4. 安全と安心を確保して、にこにこ笑顔で暮らすまち
 - (13) 防災対策の推進
 - (14) 消防・救急体制の充実
 - (15) 防犯・交通安全対策の推進
 - (16) 環境衛生・循環型社会の推進
 - (17) 有効な土地利用の推進
 - (18) 上下水道環境の充実
 - (19) 道路整備・交通網の充実
 - (20) 住宅環境の充実
5. みんなの笑顔を未来につなぐまち
 - (21) 自治体経営の推進
 - (22) 開かれた町政の推進

【行政管理の特色】

1. 事務処理の向上

福祉施設等を除き職員定数の増加抑制。行政改革によるOA化推進とファイリングシステムの導入、課の見直しと職員の適材適所の配置を行い事務処理の向上に努めている。

2. 住民サービスの強化

住民の声を速やかに町政へ反映させるとともに町内会単位に対話行政を推進し、住民サービスの強化に努めている。

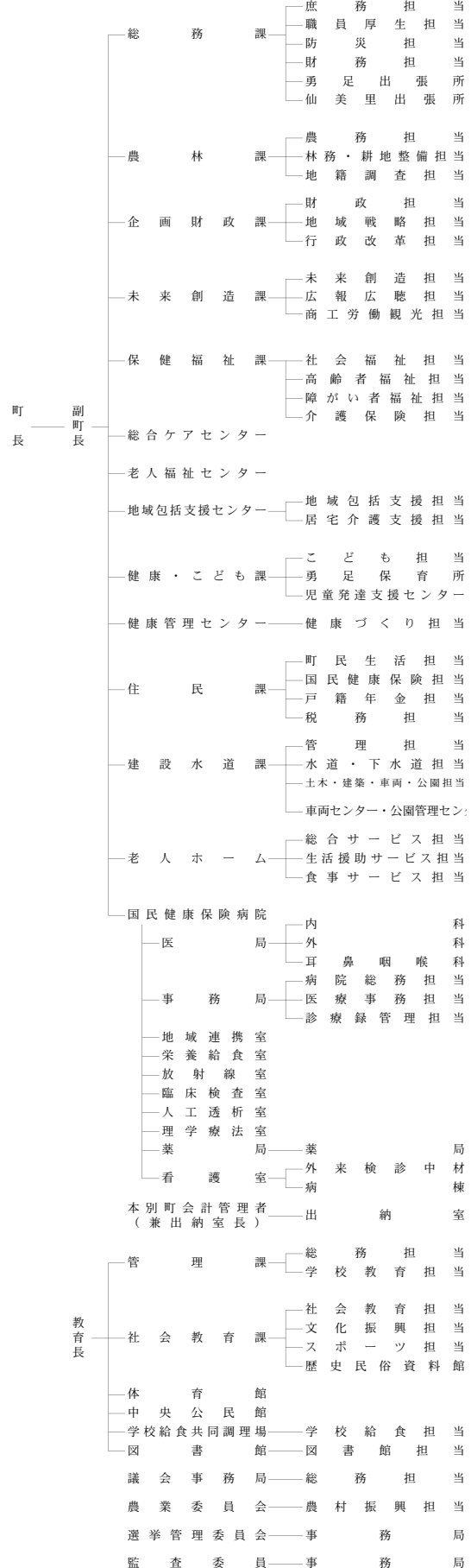
3. 広報広聴活動の強化

広報紙の内容充実

【主な公共施設】

1. 特別養護老人ホーム… 総合的なお年寄りの福祉施設
2. 体力増進センター… あらゆる器具を備えた体力づくりセンター
3. その他… 総合庁舎、体育館、公民館、柔剣道場、町民プール、葬斎場、学校給食共同調理場、保育所、農業大学校、国保病院、児童館、生活館、老人福祉センター、図書館、歴史民俗資料館、ビーフハウス、町民テニスコート(全天候)ゲートボールハウス4棟(勇足・仙美里・負籓・美里別)、義経の館、道の駅ステラ★ほんべつ、健康管理センター、義経の里ロジ「御所」、ふれあい多目的アリーナ(銀河アリーナ)、商工活性化センター(アースホール)、ふれあい交流館、世代交流館、総合ケアセンター、農産物ものづくり館(ゲンキッチン)、しごと体験交流館

【行政組織機構図】



足 寄 町 あしよろちょう



人口（R2国調） 総数：6,563人 男：3,215人 女：3,348人
 面積 1,408.04km²
 役場所在地 北海道足寄郡足寄町北1条4丁目48番地1
 郵便番号 089-3797
 電話番号 (0156)25-2141
 ホームページ <https://www.town.ashoro.hokkaido.jp>
 Eメール asho2141@town.ashoro.hokkaido.jp
 市町村コード番号 016471
 市町村類型 II-0
 交通機関 十勝バス足寄停留所から徒歩5分

【地 勢】

足寄町は十勝東北部に位置し、阿寒摩周・大雪山国立公園に接し、1,408.04km²の行政面積を擁している。地勢は概ね山麗をもって構成され、雌阿寒岳を源とする足寄川は町の中央部を縦断する利別川に合流、北部山岳を源とする美里別川は十勝川上流水力発電の原動力となり利別川に注いでいる。行政面積の83%を森林資源が占めており、気象は十勝内陸気候の影響を受けるため、寒暖の差が極めて大きく、降水量・降雪量が少なく日照時間も長い。

【歴 史】

足寄町に最初に移住したのは、明治12年に白糠から中足寄に移住してきた細川繁太郎夫妻だといわれている。現在の足寄町は、町の中央部を北から南へ縦断する利別川を境に発展してきた旧西足寄町と旧足寄村が町村合併して、昭和30年4月1日に発足した。町には、神秘の湖「オンネトー」を含めた観光資源をはじめとして、土地、山林、水利などの資源が豊富にある。人口密度は低く、過疎化の傾向にあるが、豊富な資源のほか、2本の国道（241号、242号）が町の中心部で交差していることから、道東の3地域（十勝、釧路、網走）を結ぶ中核都市として、一層、発展する要素を数多く秘めている。町ではこのような立地条件と資源の最大活用を総合計画の基本に置き、農畜林業を主体とした地場産業の育成を図りながら、「緑の大地にあふれる幸せ 安全で安心なまちあしよる」を目標に生活と生産の調和した詩情豊かで住む喜びが実感できるまちづくりを推進している。

【町名の由来】

足寄とは「アショロ、ペツ」（沿って下る川）から由来したもので、釧路方面から阿寒を越えてこの川に沿って十勝または北見に出たためこう名付けられたのが定説となっている。

【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	エゾムラサキツツジ	S53.10.20
樹木	アカエゾマツ	〃
鳥	エゾライチョウ	〃

【町章の意味】

足寄の「ア」と「シ」を組み合わせたもの。上部は翼を形とって広い面積を有する町の隆盛を象徴。下部の円は、町民融和と団結を表現している。

【町政のあゆみ】

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 昭和 30 年 町制施行 | 平成 10 年 足寄動物化石博物館オープン、 |
| 〃 33 年 役場庁舎完成 | 開町90年記念式典、 |
| 〃 37 年 町公民館完成 | 足寄町消防総合庁舎新築 |
| 〃 40 年 町村合併10周年記念式典、町章町民歌制定、 | 〃 12 年 国保病院改築 |
| 国保病院完成 | 〃 16 年 足寄ウエタスキウィン公園完成 |
| 〃 48 年 町史発刊、大規模草地育成牧場完成 | 〃 18 年 役場庁舎改築 |
| 〃 49 年 町樹芸樹木園地事業着手 | 〃 19 年 子どもセンター完成 |
| 〃 50 年 特別養護老人ホーム開設、町民憲章制定公布 | 〃 20 年 開町100年記念式典 |
| 〃 51 年 東小学校統合校舎完成 | 〃 21 年 新規就農研修センター完成 |
| 〃 53 年 西小学校校舎新築、(開町)70周年記念式典 | 新火葬場完成 |
| 〃 54 年 高齢者生きがいセンター開設、 | 〃 22 年 多目的観光施設完成 |
| 新農業構造改善事業開始 | 〃 23 年 あしよる銀河ホール21リニューアル |
| 〃 58 年 町民センター完成 | 〃 25 年 足寄中学校新校舎完成 |
| 〃 59 年 西小学校創立80周年記念式典 | 〃 27 年 高齢者等複合施設完成 |
| 〃 63 年 (開町)80周年記念式典 | 〃 28 年 足寄町児童館完成 |
| 平成 2 年 総合体育館完成、カナダ・アルバータ州 | 〃 30 年 開町110年記念式典 |
| ウエタスキウィン市と姉妹都市提携 | 足寄町図書館(レイカ)オープン |
| 〃 3 年 心身障害児通園施設あゆみ園開設、 | 令和 元 年 J Aあしよるバイオマスセンター供用開始 |
| 一般廃棄物最終処分場完成 | 〃 4 年 障害者地域生活支援センター完成 |
| 〃 4 年 畜産物処理加工施設完成、 | オンネトー野営場休憩舎完成 |
| デイサービスセンター完成 | 〃 5 年 銀河の湯あしよる完成 |
| 〃 6 年 温水プール完成 | |
| 〃 7 年 あしよる銀河ホール21完成 | |

【行政施策重点事項】

平成27年度から令和6年度までの第6次総合計画を策定し、将来像である「緑の大地にあふれる幸せ安全で安心なまちあしよろ」を目指し、町民と行政が共に考え、役割を分担し、協力し合う「協働のまちづくり」を進めている。

(基本目標)

1. 緑豊かな自然と共生し安心して暮らせる快適なまちづくり
2. いつまでも健康で安心して暮らせる支え合いのまちづくり
3. 豊かで強い心を育む学びと文化のまちづくり
4. 豊かな資源を生かした活力と魅力ある産業によるまちづくり
5. みんなで創る協働のまちづくり

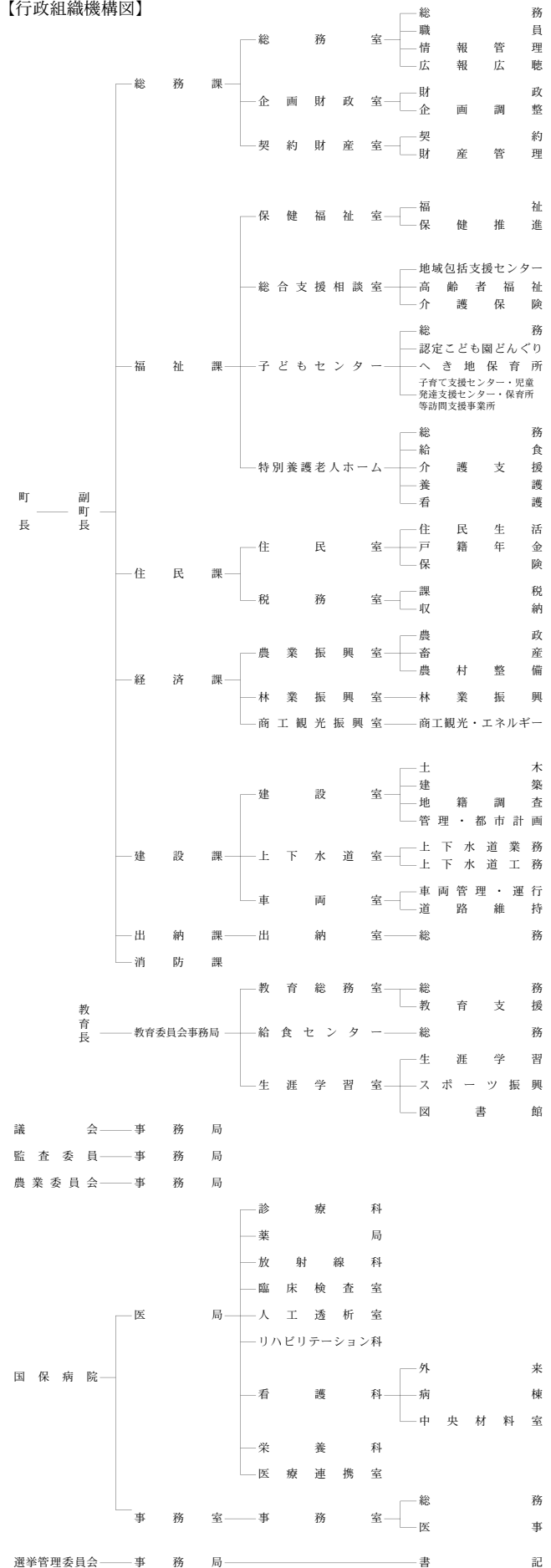
【行政管理の特色】

ニーズに応えた行政運営を行うため、住民の声を行政に取り入れる体制を構築するとともに、行政改革を推進し透明性の高い行政や住民サービスの向上に努めている。また、厳しい財政状況のもと健全な財政運営を目指し、自主財源の確保をはかるとともに、事業の見直しや近隣市町村との連携などを検討し、経費の節減や業務の効率化をはかっている。

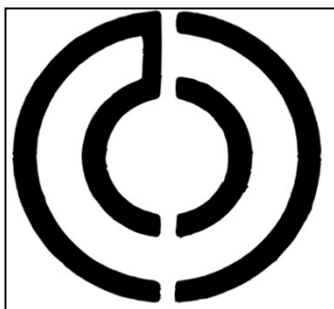
【主な公共施設】

町民センター、国保病院、給食センター、火葬場、老人憩の家、野球場、陸上競技場、自由広場、パークゴルフ場、庭球場、弓道場、野営場、大規模草地育成牧場、生活改善センター、特別養護老人ホーム、基幹集落センター、母と子の家、屋内ゲートボール場、郷土資料館、総合体育館、老人健康増進センター、温水プール、あしよろ銀河ホール21、動物化石博物館、足寄町消防総合庁舎、生涯学習館、子どもセンター、高齢者等複合施設、図書館、児童館

【行政組織機構図】



陸 別 町 りくべつちょう



人口（R2国調） 総数：2,264人 男：1,138人 女：1,126人
 面積 608.90km²
 役場所在地 北海道足寄郡陸別町字陸別東1条3丁目1番地
 郵便番号 089-4311
 電話番号 (0156)27-2141
 ホームページ <https://www.rikubetsu.jp/>
 Eメール -
 市町村コード番号 016489
 市町村類型 I-0
 交通機関 十勝バス、北見バス陸別停留所から徒歩5分

【地 勢】

陸別町は十勝の最北部に位置し、東、南、西は足寄町に連なり、北は山脈より網走管内置戸町、訓子府町、津別町に接している。陸別の東北地帯は、山岳連立してそびえる国立公園、阿寒岳の高峰と阿寒湖の山麗に隣接し、針葉樹林に富み、林産地として適するのみならず農地には良質な牧草が成育し、河川は清く酪農には最も適している。気候は内陸性気象圏に属し、寒暖の差は70℃にも及ぶ。降水量は少なく、積雪量は800mm内外である。

【歴 史】

明治34年、関又一が、7月札幌農学校卒業と同時に陸別開拓の基礎方針を定めた。この年が陸別開拓の第一歩として記念すべきときである。この年、関寛齊夫妻は結婚50年の金婚式を徳島で挙げ、73歳の老躯をもって、陸別斗満原野開拓を志し、この地に骨を埋めるべく故郷”徳島”を旅立ったのである。翁の胸にあるものは僅少なる資金によって、すべてが成功するとは考えておらず、これまでの貯えの資金を希望の地に消費し開拓する決意あるのみと記されている。明治35年8月、斗満原野に入植、牛7頭、馬52頭もって1haの開墾を行った。開拓は言語に絶する苦難の年が続いた。うさぎとねずみの襲来、酷寒、風害と闘いながら続けられた。明治の文豪徳富蘆花は明治43年9月、翁を斗満の原野に訪れている。蘆花夫婦が陸別に着いたのは、池北線が陸別まで開通した翌々日で9月24日から30日まで翁の案内で当時の原野を歩いた。この旅行日記は「みみずのたわごと」に紹介されている。

【町名の由来】

陸別の語源は、アイヌ語で「リクンベツ」（鹿のいる川の意、または、危ない、高い川の意味ともいわれている）であるといわれている。

【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	フクジュソウ	S53.9.1
樹木	シラカバ	”
鳥	カッコウ	”

【町章の意味】

リクベツの「リ」「ク」を円形に組み合わせて図案化したもので、町の円満を表現している。

【町政のあゆみ】

- | | |
|--|---|
| 昭和 28 年 町制施行 | 平成 11 年 第11回「星空の街・あおぞらの街」全国大会、
銀河の森コテージ村開村 |
| ” 56 年 陸別町民プール完成 | ” 13 年 カナダ、ラコム町との姉妹都市提携 |
| ” 57 年 陸別町公民館完成 | 10周年記念事業 |
| ” 59 年 緑町住宅地区改良事業着手 | ” 14 年 東京・陸別会設立 |
| ” 61 年 カナダ・ラコム町と姉妹都市提携 | ” 16 年 保健センター・国民健康保険関寛齋診療所完成 |
| ” 63 年 役場庁舎及びコミュニティセンター完成、
開基70年町制施行35周年記念式典 | ” 17 年 ふれあいの森完成 |
| 平成 4 年 消防庁舎完成 | ” 18 年 「ふるさと銀河線」廃止 |
| ” 5 年 ふるさと交流センター(オーロラタウン93)完成 | ” 20 年 「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」運行開始、
開町90年記念式典 |
| ” 6 年 デイサービスセンター完成 | ” 22 年 第5期陸別町総合計画スタート |
| ” 7 年 下水道事業着手 | ” 27 年 陸別町給食センター完成 |
| ” 8 年 農畜産物加工研修センター完成 | ” 30 年 開町100年記念式典 |
| ” 9 年 陸別保育所、駅前多目的広場完成 | 令和 2 年 第6期陸別町総合計画スタート |
| ” 10 年 公共下水道一部供用開始、
りくべつ宇宙地球科学館完成、
開町80年記念式典 | |

【行政施策重点事項】

令和2年3月に、第6期陸別町総合計画を策定し、新たな将来像である「人と自然が響き合う 日本一寒い町 りくべつ」の実現を目指し、次の「5つの基本目標」に基づきながら、まちづくりを進めている。

1. 自然と溶け合う豊かな地域産業のまち
2. 支え合いで心と身体の幸せをつくるまち
3. 快適に暮らせる心地よい生活環境のまち
4. 豊かな心を育む学びと人づくりのまち
5. ふれあいと交流で創るあたたかなまち

【行政管理の特色】

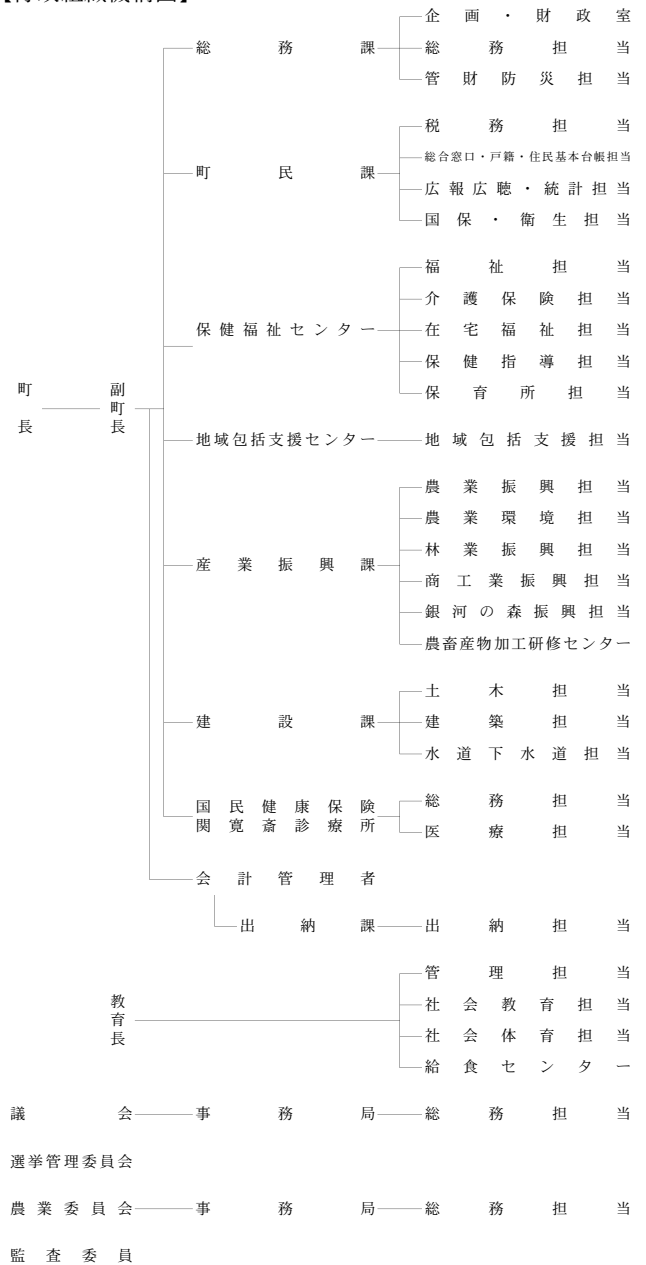
職員定数の増は極力サービス面にとどめ、人件費の比率も最小限にとどめ、行政事務改善に配慮し、事務能率の向上に努める。

伝票会計制度の実施・・・伝票会計制度は昭和40年から実施し、平成9年度に電算機導入により、財務会計の合理化を図り、能率的に処理されている。

【主な公共施設】

福祉館、町民グラウンド、町民プール、小学校、中学校、公民館（視聴覚室、図書室）、町民運動場、老人健康増進センター、陸別町コミュニティセンター（タウンホール）、オーロラタウン93（陸別道の駅、物産館、宿泊研修施設、関寛齋資料館）、イベントセンター、デイサービスセンター、農畜産物加工研修センター、陸別保育所、駅前多目的広場、陸別浄化センター、りくべつ宇宙地球科学館、コテージ村、保健センター、国民健康保険関寛齋診療所、ふるさと銀河線りくべつ鉄道、陸別町給食センター

【行政組織機構図】



浦 幌 町 うらほろちょう



人口（R2国調） 総数：4,387人 男：2,138人 女：2,249人
 面積 729.85km²
 役場所在地 北海道十勝郡浦幌町字桜町15番地6
 郵便番号 089-5692
 電話番号 (015)576-2111
 ホームページ <https://www.urahoro.jp/>
 Eメール -
 市町村コード番号 016497
 市町村類型 II-0
 交通機関 根室本線浦幌駅から徒歩10分

【地 勢】

浦幌町は十勝の東部に位置し、町は概ね穏やかで峻険地少なく、南北に狭長な形態をなし、中央部を貫流する浦幌川は、延々120 kmに及び太平洋に注いでいる。また、24kmの海岸は太平洋でも珍しいほどの遠浅である。耕地の約65%は平坦な河川流域に分布し、これは概ね河成沖積土壌であり、他の35%は5～18°の傾斜地及び段丘地帯に属し、ともに火山灰を狭在しているが地味が良好で畑作、酪農の適地である。

【歴 史】

明治13年、十勝郡等4郡各村戸長役場が大津村に置かれ浦幌の行政が始まる。同16年、岩手県人西田小治郎が和人移住として初めて入地し、牧畜を業として定住、同33年生剛、愛牛、十勝の3村戸長役場を大津村より分離し、生剛外2ヵ村戸長役場の独立設置をもって開町としている。同38年、生剛村役場を現在の浦幌市街に移転、翌39年4月2級町村制施行により十勝村は大津村に合併、生剛、愛牛をもって生剛村と称する。その後、鉄道、道道、国道等開通により益々発展し、同45年4月生剛村を浦幌村と改称する。大正5年8月、浦幌市街60戸焼失の大惨事に見舞われた。その後、復旧に努力し産業開発促進に傾注し農業、林業を中心に発展しているが、この間昭和27年3月4日十勝沖地震発生、震度7という管内一の激震で死者1名、重軽傷者139名、罹災家屋1,667戸という全滅に近い、開村以来未曾有の被害を受けた。しかし、村民一体となって復旧に努力し、同29年町制を施行し、更に翌30年4月大津村の一部（東部地区）を本町に編入合併した。現在では、農林業に漁業が加わり、三大産業とともに発展躍進を続けている。

【町名の由来】

浦幌とは「オーラポロ」から起り、オーは川尻、ラは草の葉、ポロは大きいという意味で、川尻に大形の葉が沢山育成するところからなったものである。

【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	ハマナス	S61.8.5
樹木	ナナカマド	〃
鳥	青サギ	〃

【町章の意味】

外側の太い線は十勝国、内側の細い線は十勝郡の「十」の頭文字を意味し、中心に躍進を続ける大浦幌町を表徴し、全体を通じて十勝郡浦幌町を示したものである。

【町政のあゆみ】

- | | |
|------------------------------------|--|
| 昭和 29年 町制施行 | 平成 8年 健康公園完成 |
| 〃 30年 大津村東部地区編入合併 | 〃 9年 浦幌町保健福祉センター完成 |
| 〃 38年 ロランC局十勝太通信所設置 | 〃 10年 中浦幌浄水場完成、
浦幌町立診療所完成 |
| 〃 45年 役場庁舎完成 | 〃 11年 開町100年記念式典、
浦幌町教育文化センター「らぼろ21」完成 |
| 〃 49年 町制施行20周年記念式典、
激甚災害復旧完成式典 | 〃 12年 インターネット図書館蔵書検索システム導入、
リサイクルセンター完成 |
| 〃 52年 うらほろ森林公園開園、共同利用模範牧場完成 | 〃 13年 上浦幌中学校新校舎落成式典 |
| 〃 55年 上浦幌団地センター、
高齢者生産活動センター完成 | 〃 14年 中央広場「ハローパーク」供用開始、
森林公園展望台完成 |
| 〃 57年 浦幌小学校統合校舎落成 | 〃 15年 養護老人ホーム「らぼろ」改築完成 |
| 〃 59年 町制施行30周年記念式典 | 〃 20年 一般道道直別共栄線の厚内トンネル完成 |
| 〃 60年 浦幌勤労者野外活動施設完成 | 〃 21年 開町110年記念式典、
道の駅うらほろオープン |
| 〃 62年 一般廃棄物処理センター完成 | 〃 23年 うらほろ留真温泉オープン
浦幌中学校校舎完成 |
| 〃 63年 農村環境改善センター完成 | 〃 25年 防災無線一部デジタル化 |
| 平成 元年 浦幌町農業技術拠点施設完成、
うらほろ町民球場完成 | 〃 26年 岩手県洋野町と友好の町絆協定を締結 |
| 〃 2年 終末処理場完成 | 〃 29年 町立学校給食センター完成 |
| 〃 3年 住民記録電算化供用開始 | 令和 元年 開町120年記念式典 |
| 〃 4年 総合スポーツセンター完成 | 〃 3年 浦幌町認定こども園完成 |
| 〃 5年 スイミングプール完成 | |
| 〃 6年 屋内アイスアリーナ完成 | |
| 〃 7年 うらほろパークゴルフ場完成 | |

【行政施策重点事項】

「想いをつないで未来を創る”わたしたちのまち”うらほろ」をメインテーマとし、

- ・「新しいちからを取り入れ確かな産業を創るまちづくり」
- ・「健やかで安心できる支え合いのまちづくり」
- ・「人と文化を育むまちづくり」
- ・「豊かな自然環境の保全と快適に暮らせるまちづくり」
- ・「計画的かつ効率的な行政運営」

を基本目標に町民一体となったまちづくりを進める。

生産性の高い安定した農業の確立、自然豊かな森づくり、つくり育てる漁業の推進による資源管理型漁業の促進など、基幹産業である農林水産業の振興を図る。

魅力的で活気あふれる商店街づくりと地場企業の育成振興を図り、さらには、新たな産業の創出をめざし、関連産業の連携による異業種交流や起業化への支援など、活気ある商工業の振興を図る。

利便性と質的に充実した快適な居住環境を確保するため、道路、水道、下水道、住宅・宅地などの整備や、公共交通の確保と地域の情報化の推進を図る。

分別・リサイクルの推進による廃棄物の排出抑制、適切処理の推進、公園、緑地、街路、景観などの整備・保全、治山・治水などの国土保全を推進する。

また、交通事故や災害などから町民の生命と財産を守るため、交通安全、防犯、防火、防災対策を進める。

豊かな人間性や社会性を身につけ、国際化・情報化・環境問題などの時代の要請に柔軟に対応できる「生きる力」をはぐくむ「ひと」の育成に努め、だれもが生きがいとゆとりを持って、心豊かな暮らしができるよう多種多様な学習、文化、スポーツ活動の充実を図り、人と人を結ぶ心のネットワーク化を推進する。

町民が健康で安心して暮らすことができるよう子育て支援の充実を図るとともに、保健・医療・介護の関係機関・団体と連携しながら、保健事業、医療体制、高齢者福祉・介護サービスの充実を図る。

個性豊かな地域づくり、自立的なコミュニティの形成に向けた取り組みを進めるとともに、町民と行政との協働のまちづくりに向け、町民との協働体制の確立を図る。

男女が対等な立場で役割・責任を共有しながら参画することができるよう、男女共同参画社会の形成に向けた取り組みを進めるとともに、明るい地域社会の形成に向け、人権教育や啓発活動を推進する。

【行政管理の特色】

庁内LANによる行政内部情報の共有化を図るとともに、協働のまちづくりを進めていくため、広報誌、ホームページ、電子メール配信に加え、地デジ広報やLINE(ライン)を活用した情報発信のほか、職員が各地域に出向く「まちづくり出張説明会」などを実施することで、より町民に行政への関心を高めていただくよう、様々な方法をもって町民に直接、行政情報を届けながら、多くの方がまちづくりに参加できる機会の充実に努めている。

【主な公共施設】

生活改善センター、公民館(4)、博物館、生活館、養護老人ホーム、診療所、歯科診療所(2)、墓園、葬斎場、浄水場、消防会館(4)、学校給食センター、保育園、認定こども園、共同利用模範牧場、森林公園、上浦幌団地センター、一般廃棄物処理センター、農村環境改善センター、町民球場、公共下水道、終末処理場、十勝太コミュニティセンター、総合スポーツセンター、ゲートボール場(2)、スイミングプール、パークゴルフ場(4)、保健福祉センター、図書館、幾千世軽スポーツセンター、新養老コミュニティセンター、上浦幌地区軽スポーツセンター

【行政組織機構図】

